

総合評価シート

評価対象年度：令和6年度

施設所管課：施設課

1. 指定管理者の概要

名称	常総アップサイクルパーク共同事業体
所在地	茨城県守谷市野木崎1341
代表者	河西 健一郎（代表企業 リバリューマネジメント株式会社 代表取締役）
指定期間	令和4年4月1日から令和24年3月31日まで
業務内容	常総運動公園の利用及び施設の維持管理に関すること。

2. 施設の概要

施設名	常総運動公園	該当年度中の開園日数	316日
所在地	茨城県守谷市野木崎4700番地	1日における開園時間	12～15時間
設置目的	構成市（常総市、取手市、守谷市、つくばみらい市）住民のスポーツレクリエーションの振興を図り、健康及び体力の増進に資することを目的とする。		
主な設備	野球場（両翼95m中堅109m）、テニスコート（7面、人工芝）、体育館（バスケットボール2面）、会議室、室内温水プール（50m×7コース）、自由広場（サッカー場2面）、陸上競技場（400mトラック6コース、インフィールド公式サッカーグラウンド1面）		

3. 施設の利用状況

内容		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	傾向と増減理由
総利用者数		95,169人	173,353人	203,102人	205,185人	全体的に増加傾向。継続して利用者数20万人を突破。
各施設の利用率	体育館	21,905人	31,143人	34,539人	31,141人	利用者数減。
	室内温水プール	8,442人	56,825人	73,562人	73,720人	利用人数微増。
	野球場	4,683人	7,791人	11,060人	12,480人	自主事業により、利用者人数増加。
	テニスコート	20,336人	23,921人	26,255人	26,755人	利用者人数は微増。
	自由広場	31,473人	37,332人	41,806人	45,251人	自主事業により、利用者人数増加。
	陸上競技場	6,116人	11,966人	10,444人	10,529人	利用者人数微増。
	会議室	2,214人	3,784人	4,807人	4,710人	利用人数微減。
	その他	16,610人	591人	629人	599人	利用人数微減。

4. 収支状況（管理運営業務）

		予算額	決算額	増減額	増減の主な理由
収入合計（A）		168,023,000	168,506,670	483,670	
項目	指定管理料	134,796,000	134,796,000	0	
	利用料金	33,227,000	33,710,670	483,670	自主事業誘致を通じ利用料向上
	その他				
支出合計（B）		161,397,700	144,973,697	-16,424,003	
項目	人件費	91,200,000	95,352,745	4,152,745	人員強化を実施
	管理費	11,640,000	7,724,605	-3,915,395	効率化を図る
	旅費交通費	1,440,000	1,370,080	-69,920	
	会議費	12,000	48,923	36,923	
	消耗品費	3,600,000	3,458,116	-141,884	
	印刷製本費	480,000	437,582	-42,418	
	修繕料	3,600,000	5,909,160	2,309,160	修繕をスピード上げて強化
	燃料費	180,000	208,334	28,334	
	光熱水費	3,236,000	3,231,318	-4,682	
	委託料	40,800,000	21,405,457	-19,394,543	効率化を図る
	手数料	30,000	33,146	3,146	
	通信運搬費	3,360,000	3,678,473	318,473	
	広告料	0	177,295	177,295	
	賃借料	78,000	510,390	432,390	
	備品購入費	600,000	110,576	-489,424	
	保険料	1,008,000	931,427	-76,573	
	負担金	0	0	0	
	公租公課	0	9,020	9,020	
	雑費/予備費	132,000	149,050	17,050	
	保険衛生費	1700	30,000	28,300	
	減価償却費	0	198,000	198,000	
	警備料	0	0	0	
収支（A）－（B）		6,625,300	23,532,973	16,907,673	

【収支状況（管理運営業務）に関して指定管理者のコメント】

人件費や修繕など、以前よりご指摘いただいた項目は強化を図る一方で、全体的に無駄な費用の削減を徹底的に図る事で、効率的な予算執行を実現。

4. 収支状況（自主事業）

		予算額	決算額	増減額	増減の主な理由
収入合計 (A)		9,661,500	7,448,524	-2,212,976	
項目	自主事業収入	9,661,500	3,859,170	-5,802,330	プール計画以外は、計画/前年超え
	自販機収入		3,589,354	3,589,354	計画に織り込んでいなかった為
	その他			0	
支出合計 (B)		8,072,500	3,151,933	-4,920,567	
項目	施設使用料	1,725,000	1,523,650	-201,350	
	自販機コスト	0	57,308	57,308	売上に連動
	営業管理諸経費 (イベント運営委託費)	6,347,500	1,325,585	-4,776,525	売上に連動
	その他		245,390		
				0	
				0	
				0	
収支 (A)－(B)		1,589,000	4,296,591	2,707,591	

【収支状況（自主事業）に関して指定管理者のコメント】

みずき野プール再開により、プールのスクール計画が大きくずれる
それ以外は、売上・収支ともに計画を超える
前年差は+336万円

5.項目別評価

1. 施設の管理運営		指定管理者 による自己評価		施設所管課 による評価		
(1) 基本方針の確立		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立され、業務従事者は理解していたか。		B		B	2	
(2) 人員体制		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
施設の管理運営に必要な人員が過不足なく配置されていたか。		A	組合指導のもと、人員強化を実施 役割分担を明確化し、業務範囲も大幅に拡大	B	2	人員体制の見直しによる業務改善が見られましたが、概ね基準どおりでした。また、計画書に掲げられた研修等の実施もしくは今後の実施計画等が確認できませんでした。
地元雇用の配慮はされていたか。						
業務の遂行に必要な知識、技能の習得、利用者サービス向上のための研修等は実施したか。						
(3) 連絡体制		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
協定書等に従い、各種書類等は遅延なく提出していたか。		B		B	2	
(4) 利用者数		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
事業計画書に掲げた目標を達成したか。		B		B	2	
(5) 記録管理		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
利用申請書、報告書その他書類を適切に作成・保管していたか。		B		B	2	
(6) 情報公開・個人情報保護		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
情報公開・個人情報保護の取り扱いは、協定書に基づき適正に行っていたか。		B		B	2	
(7) 第三者委託		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
第三者への委託が適切な手続きで行われ、第三者が再委任することはなかったか。		B		B	2	
(8) 緊急時の対応		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
事故、災害時等の緊急時対応マニュアルの整備や対応体制が確立されていたか。		B		B	2	
指定管理者 コメント	通常の管理運営は、適正に行われており、利用者数も向上した。					
施設所管課 コメント	概ね適正な施設管理運営でありましたが、基本計画書に掲げられている研修等については、職員の知識及びスキル向上のため、定期的な実施を求めます。					

5.項目別評価

2. サービス向上の取組み		指定管理者 による自己評価		施設所管課 による評価		
(1) 利用者対応		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
利用許可、予約等を公平かつ適切に行っていたか。		A	スマートロックの導入や自動応対電話の導入により、利用者の利便性が大きく向上した。	B	2	スマートロック・自動応対電話の導入により管理側の負担は軽減されたと思いますが、利用者の利便性が大きく向上されたという成果は確認できませんでした。
マニュアルが整備され、利用者への接遇は適切であったか。						
(2) 利用促進		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
施設の利用者増に向けた取組みを行ったか。		A	自主事業を新たに誘致し、イベントやスクールも開始した	A	3	
(3) 情報提供・PR		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
施設の認知度向上や最新情報の発信等を積極的に行ったか。		A	SNS発信を強化した事により、フォロワー数が230名向上した	B	2	SNS発信においては、こまめに情報を更新しておりました。
(4) 苦情等への対応		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
苦情や要望等の対応を、迅速かつ適切に行ったか。		B		B	2	
(5) 利用者調査		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
アンケート等の実施により、利用者満足度やニーズを把握し、サービス向上に活用していたか。		B		B	2	
(6) 連携業務		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
運動公園と地域交流センターの両施設を有効活用した連携業務を実施したか。		B		B	2	
(7) 地域との連携		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
地域に根差した施設運営となるような取組みを行ったか。		B		B	2	
(8) 自主事業		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
事業計画書に掲げた自主事業を実施できたか。		A	新たな自主事業を誘致し、指定管理者主催イベント・スクールも開始した	B	2	年度計画に掲げられた自主事業はほぼ実施されましたが、基本計画書に基づいた計画実施を期待します。
利用者ニーズを踏まえた自主事業を実施したか。						
指定管理者コメント	利用者を第一に考えた施策により、利用者利便性や利用者満足度を向上させた。					
施設所管課コメント	サービス向上の取組については、概ね適正でありました。					

5.項目別評価

3. 施設の維持管理		指定管理者 による自己評価		施設所管課 による評価		
(1) 施設の点検・整備等		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
法令、業務基準等に従い、施設や設備の点検整備、保守管理等を行っていたか。		B		B	2	
(2) 施設の修繕		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
協定書等に従い、適切に修繕が実施されていたか。		B		B	2	
(3) 清掃・衛生管理		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
業務基準等に従い、清掃・衛生管理を適切に行い、施設が清潔に保たれていたか。		B		B	2	
(4) 植栽等の管理		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
業務基準等に従い、樹木・植栽等の美観が保たれていたか。		B		B	2	
公園においてグラウンドは良好に保たれていたか。						
(5) 備品の管理		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
備品を適切に管理し、また、備品台帳を整理していたか。		B		C	1	備品更新（処分・購入）について、組合へ報告がされておらず、また管理不足により紛失してしまった備品がありました。
年に1回以上、台帳と現物の照合を行ったか。						
(6) 環境への配慮		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
環境に配慮した製品の購入や、エネルギー使用量・廃棄物の削減に向けた取組みをしていたか。		B		B	2	
指定管理者コメント	維持管理担当者の尽力により、老朽化された施設ながら、維持管理は徹底された。					
施設所管課コメント	施設修繕を適時実施し施設保全に努めており、施設の維持管理については概ね適正でありました。また、保管期限を超えた忘れ物の一部をリサイクル団体に寄付し、廃棄物の削減に努めたことは素晴らしい取組でした。一方で、備品管理については更新が滞っていた他、紛失となった備品がありましたので、適切な備品管理をして下さい。					

5.項目別評価

4. 収支状況		指定管理者 による自己評価		施設所管課 による評価		
(1) 経理事務		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
指定管理業務に関する経費と自主事業に関する経費を区別して帳簿等を備え管理していたか。		B		B	2	
料金徴収、減免、還付の手続きは適切に処理したか。						
自主事業に指定管理料を充てることはなかったか。						
(2) 予算執行		評価	B評価以外の理由	評価	評点	相違がある場合の理由
サービスの維持・向上に留意した上で、効果的・効率的な予算執行が図られたか。		A	効率的な予算執行をしつつ、修繕などの必要項目に予算を超えた執行を行った	B	2	無理・無駄のない予算執行でありました。
指定管理者コメント	経費の無駄を省くことで、適正な予算の執行管理ができた。					
施設所管課コメント	複数日入金の際においても各日ごとの利用料金で入金されており、明確な口座管理が行われておりました。また、受付人員の増加により修繕等がスムーズに実施されていました。今後も利用者サービス向上及び施設の安全維持に向けた予算執行を期待します。					

6. 総合評価

合計評点数	48 /72点	
総合評価	B	適正である
【施設所管課からの講評】 前年度より修繕対応の迅速化や経理事務の明確化等、業務内容の改善がみられ、安全・健全な施設の管理運営に努めていました。今後は地域団体との連携にもより注力し、地域と共にある施設づくりを期待します。		